

令和4年度第3回安芸高田市総合教育会議議事録

日時	令和4年11月25日(金)午後2時から
場所	市役所第2庁舎3階 第1委員会室
出席者の職及び氏名	市長 石丸 伸二 教育長 永井 初男 教育委員 山本 博昭、金川 佳寛、広瀬 ゆみ子、迫広 淑文

【総務課長】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第3回安芸高田市総合教育会議を開催します。まず、開会に先立ち、資料の確認をいたします。会議次第、資料1として、川根小学校の統合について、資料2として、中学校統合説明会資料。不足はございませんでしょうか。日程は会議次第のとおりです。

それでは早速、次第に沿って進めていきます。ここからの議事進行については、石丸市長に議長を務めていただきます。それでは市長、よろしくお願いいたします。

【石丸市長】

本日もお忙しい中お集まりくださいまして、誠にありがとうございます。今日の会議ですけれども、大体15時を目標に全ての協議が終わればと思っています。ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

では、早速協議に入っていきます。まずは、高宮地区小学校の統合についてです。事務局から報告をお願いします。

【教育総務課長】

では、資料1です。川根小学校の統合についてということで、安芸高田市教育委員会では、平成22年4月に学校規模適正化委員会から受けた答申の内容を尊重して、小学校の過小規模化の解決を重点として、これまで学校規模適正化推進事業を進めて参りました。このたび、川根小学校と高宮小学校の統合について合意形成が図られましたので報告をさせていただきます。

経過としましては、3月の教育委員会会議において、高宮地区の小学校統合の協議に入ることにして会議を持ちました。5月には、小学校と保育園の保護者への説明会と意見交換を行って参りました。また、6月には、高宮地区の学校運営協議会への状況報告を行っております。その後、10月ですが、前回、第2回の総合教育会議で石丸市長と教育委員さんの意見調整を行い、その下、(5)のところですが、10月28日に川根小学校、かわね保育園保護者と、川根地域振興協議会の地元での協議が行われました。その際に、協議結果として川根小学校と高宮小学校が統合すること、統合時期については、令和6年4月を希望するという事で一致をされております。これを受けまして、(6)11月26日土曜日にこの統合方針の確認と今後のスケジュール周知ということで市教委と川根地区の保護者及び振興協議会の方へ出向いて説明をしようという風に今考えております。

裏面をご覧ください。今後のスケジュールということで、本日この総合教育会議で意見調整された後、教育委員会会議の臨時会において統合方針を決定したいという風に考えております。その後、来週 28 日月曜日に市長記者会見を行い、12 月 7 日に市議会の 12 月定例会において安芸高田市立学校設置条例の一部を改正する条例案を提出したいという風に考えております。それから令和 5 年度につきましては、これまで行って参りましたような統合準備委員会を立ち上げ、例えば通学に関する事、あるいは、放課後児童保育に関する事など学校統合に向けた諸事項を調整していきたいという風に考えております。

参考に、最後 4 番ですが、児童数として、現在川根小学校は 5 月 1 日時点で児童数が 7 名。それから高宮小学校が 81 名。統合後、令和 6 年 4 月の見込みとなりますが、高宮小学校の全体では 86 名ぐらいの規模になろうということを見込んでおります。説明は以上でございます。

【石丸市長】

ありがとうございました。それでは本件に関しまして、ご質問やご意見があれば、頂戴したいと思っておりますが、いかがでしょうか。

広瀬委員をお願いします。

【広瀬委員】

川根小は、安芸高田の中でも地域と深い繋がりがある小学校という風に認識していますし、その良さを生かした教育活動がずっとなされてきたから、今日まで存続してきたんだなと思います。閉校となる川根小学校で過ごす来年度の児童の 1 年は、本当に大切な 1 年になると思うので、ぜひ、学力の保障はもちろんのことですけども、川根小学校で過ごしてきたこと、それから、閉校となる最後の児童であることに自信と誇りを持てる、そういう 1 年を過ごさせていくのが私たち大人の役割かなと思います。そして、おそらく閉校行事とかがあると思うんですが、ぜひ私は、子どもの意見を尊重した企画の一つでも盛り込まれたものになるのが大きな自信に繋がって、高宮小学校へと進めるんではないかという風に考えています。単純に自分の思いなんですけど、そう考えます。

【石丸市長】

貴重なご意見ありがとうございます。他の皆さまでいかがでしょうか。よろしいですか。

ちなみに私の思いとしては、できるだけ早く統合するのであれば、急いだ方がいいのではないかなという意見も伝えさせていただいたんですけども、保護者の皆さんの総意として 1 年ちょっと先、再来年度から統合が良いという意見でまとまったということでした。

では、ご意見が他にないようですので、この報告のとおり統合を進めていきたいと考えますが、よろしいでしょうか。異議ございませんでしょうか。

ありがとうございます。では、以上で高宮地区小学校の統合についてを終了します。

続いてですが、中学校の規模適正化についてです。事務局から資料の説明をお願いします。

【教育総務課長】

それでは、資料説明の前に少し経過を説明させていただきます。本年 6 月に実施をした中学校統合に関するアンケートの結果、2 校統合が約 4 割、1 校統合と 3 校統合の支持が約 3 割という結果になりました。このアンケート結果を踏まえた今後の中学校統合に関する議論の進め方については、前回の総合教育会議で情報共有を行い、意見調整をした結果、次のステップとしては、再度、1 校、2 校、3 校の校数案に対する長所短所を整理して、各町ごとに説明会を開催し、保護者からの感想を聞いていこうということになっていると思います。今回の説明会のポイントとしましては、特に関心の高い通学や学校の位置に関して、再検討した内容を説明し、子どもたちにとって一番望ましいと思われる案を保護者に伝えて、それについての感想を聞くという形をとっていきたいと考えております。その説明資料として調製したものが、本日お手元にあります資料 2 になります。それでは資料の説明に入らせていただきます。

まず、表紙の部分、目次の部分をご覧ください。項目立てとしては、まずは、1 でアンケート結果を再確認し、2 で検討項目ということで、(1) から (6) まで検討をし、3 でまとめという形にしております。めくっていただいて、スライド番号の 3 番になりますが、まずはアンケート結果、校数のところですが、2 校統合が 39.1% で一番高く、次いで 1 校統合、3 校統合がそれぞれ 30.4% の結果となっております。その下、心配なことという点では、通学手段・時間が 24.4% と一番高く、次いで中学校の位置が 22.6% の結果となっております。この二つの心配なことということで合わせたら 47% あまりになっております。このアンケート結果から 2 校案を選択した保護者が一番多く、通学与学校の位置を心配する保護者が多いということなので、検討に入る前段として、通学の距離に着目をして、2 校案のグルーピングについて、次の 4 案を考えております。スライド番号の 5 になります。まず、案 1 が、アンケートの際に示した吉田グループ、甲田グループです。案 2 が、通学距離の短縮が可能な吉田グループ、高宮グループの分けになります。案 3 は、アンケートの際に、1 校支持が一番多かった美土里町、高宮町を吉田グループに編入した案。また、案 4 は、同じく 1 校案の支持が多かった美土里、高宮を甲田、向原グループに編入した案になります。このグルーピングの結果、2 校案につきましては、丸印をつけております案 2、現中学校からの平均距離ということで、それぞれ 9 キロ、12.2 キロということで、平均でも 10.6 キロということが見込まれますので、距離の面で一番短く、妥当な案になるのではないかとこの風に考えました。よって、2 校案についてはこの案 2 で以下検討を進めていきたいという風に考えました。

続いてその下、学級数です。校数の案ごとに、普通学級の数と生徒数の見込みをグラフにしております。まず、スライド 6 番 1 校案です。1 校案の場合、望まれる学校規模としてクラス替えが可能な 1 学年複数学級が確保できます。今後は生徒数が減少していきますけれども、2027 年度には 600 人を切って、2033 年度には 400 人を切る見込みです。普通学級の数としては、当初は 5 クラスないしは 6 クラスぐらいの規模になるのではないかと推計しております。次、スライドの 7 番、2 校案の場合ですが、2 校案の場合、高宮グループが 2028 年度には 200 人を切る見込みで、普通学級の数はそれぞれ記載のとおりでございます。それから最後は 3 校案の場合なんですが、3 校案の場合、高宮グループが統合当初 2026 年度を想定すると、その時点からもうすでにクラス替

えができない状況。また、高宮グループについては、10年後には全体でも57人程度ということで、3校統合の場合は、そういった状況からこれでは当初の答申で出された望まれる学校規模がそもそも確保できませんので、3校案を検討することについては、少し現実的でないという風に今判断をしております。よって、以降の検討につきましては、1校案と2校案のうちの案2で比較をしていきたいという風に考えております。

その比較ですが、まずは通学の点です。スライドの9番になります。2(2)通学距離1校案の場合ということで、当然この場合、路線も多く、長距離輸送のため、経費はたくさん必要になってきますが、現中学校から中心地吉田町への距離ということでそれぞれ記載をしておりますが、一番遠いところで高宮中学校が16.6キロ、次いで美土里中学校13.8キロといったような状況になっております。その下、2校案の場合は、当然1校案よりは距離が短縮でき、経費も抑えることができます。この点では、通学については2校案の方が、少し有利な状況ということが言えると思います。めくっていただいて、次は、部活動の選択肢の状況です。これは、現状の部活動の状況と統合後の部活動の状況ということで比較をしております。現状では、記載のとおりで、特に文化系クラブは、吉田中を除いてどの学校も一つぐらいしか文化クラブの選択はないという状況です。統合後ということになりますと、当然2校案の場合、体育系クラブ・文化系クラブも選択肢は広がりますし、もちろんそれが1校案になるとさらに選択肢が広がっていく状況です。また、団体競技も多く設置をすることが可能であるという風に見込んでおります。

次のスライドが、13、14ですが、専科科目教職員の配置になります。これも現状と統合後比較をしております。現状では、吉田中以外は、専科の職員の配置についてはそれぞれ学校1名ずつとなっております。その下、統合後は、学級数が多いほど専科の職員の教職員を複数名配置することが可能ですので、2校案の場合、3名と1名。1校案の場合は、4名の教職員が確保できるといった状況になります。

もう一つめくっていただいてスライドの15番です。施設面で必要な教室の見込みを出しております。既存校舎を利用する場合、いずれの案も教室が不足する見込みとなっております。今年の3月に示された「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」にもありますように多様な教育的ニーズにある児童生徒への対応が必要になっていることから従来の普通教室や特別教室に加えて、通級学級、あるいはスペシャルサポートルーム、少人数学級など必要なスペースを確保することが必要になっていると考えております。よって、例えば1校案の場合、現状23に対して31教室見込まれますので、不足教室が8教室ということでこの場合、いずれにしても現状では難しいので、1校の場合は、当初示してますように学校を新設したいという風に考えております。2校案の場合、教室の不足が発生しますが、ご覧のように3教室程度ということでございますので、これも当初示しておりますように2校の場合は既存校舎で不足分については、増築等で対応できるのではないかという風に考えております。

続いて、その下、新しい学校像。これは今時点で案ということになりますが、まず、教室・校舎のハード面につきましては、そこに記載をしておりますように、新しい施設を建築する際には、木材を多用した学校であったり、ICT環境や新型コロナ対策、あるいは、文科省が示している新しい学校施設

の在り方に基づいた広い普通教室で机の大きさも大きい規格の机が置けるようなものを整備したいという風に考えております。

続いて、ソフト授業面では、27 番ですが、授業面では、カリキュラムの変更であるとか、あるいは今取り組んでおります PBL 授業の充実など。それから、部活動にしても、新しい学校では今議論されております部活動の地域移行に伴う外部指導者による指導であったり、あるいは、特色あるクラブ活動を充実ということで、あくまでもこれは例示ということですが、いろんな新しい部活動も実施ができるのではないかとといったようなことを今考えているところでございます。

最後にまとめになりますが、これまで検討した結果、以上のようなことから未来に生きる力を高める場所としての新しい学校については、将来に向けてより多くの仲間とともに新しい学校で学んでほしいというような思いから子どもたちにとって一番望ましい学校校数というのは、1 校案ではないかと、総合的に 1 校案が優れているんじゃないかという風に今考えております。

こういう形で今、思っておりますので、この資料をこれから保護者の皆さんに説明を行い、保護者の方からの意見を伺うといった形で進めていきたいという風に考えております。資料の説明については以上でございます。

【石丸市長】

ありがとうございました。前回の会議でアンケートの結果を確認したんですけども、その内容を答申に沿って、有効性を検証した結果がこの報告になっています。

こちらについてご質問やご意見を頂戴できればと思うんですけども、いかがでしょうか。

迫広委員お願いします。

【迫広委員】

3 点ほどお願いします。

一つは、スライド 18 のあたり。部活動という言葉とクラブ活動という言葉が混在をしています。今の学習指導要領で言えば、部活動ということになるので、無用な混乱を防ぐためにも部活動に統一して記述していった方がいいのではないかと。ちょっと細かいことですが、それが一つ。

それからスライド 16 の新しい学校の校舎教室というところの一番下です。文科省の施設の在り方に基づいて、普通教室面積を云々とありますが、これは広い教室を確保しますよということなんだと思いますが、現行がこうで、新しいのはこうだという比較対照ができるようにすれば、保護者の方もイメージしやすいのではないかと。そのあたりを丁寧にちょっと書いた方が、こんな広い教室でこんな大きな机で勉強できるんだなというイメージを持っていただくのに有効ではないかということです。

それから最後 3 点目ですが、ご存知のようにアンケート結果では、2 校案が多かったわけです。ところが、最後にはちょっと唐突な感じもしますが、行政としては 1 校案だということになっていますので、アンケートに協力いただいた保護者の方からすれば、多数決の原理じゃないけども、一番多い数値のところの 2 校案になるんじゃないかという思いで多分説明会にも来られると思うんですけども、そうではなく 1 校案が望ましいということであれば、2 校案のどこがデメリットなのかということ

資料にして出すのかどうかは別にしても、きちんと我々の側は持っておかないと、この資料の流れからして試してみても、2校案のメリットも随分あるわけです。通学の距離が短い、バスの台数が少なく経費も安価で済むなどということになっていますので、2校案でいいのではないかとということにもなりかねないので、2校案のデメリット、これは実はこうなんですよということが言えるようにしておかないといけないんじゃないかということを思います。一つは、前々から論議しているように答申の中に複数学級が望ましいとなっています。これは、我々の中ではそういうのは理解できるんですが、一般の保護者からすると、複数学級にならないといけないのはどういうことかと、単学級のどこがダメなのかという素朴な考え方もあると思います。複数学級だということであれば、複数学級のどこがメリットなのかということもそもそも論になりますが、我々としてはそこをきちんと説明できるものを持っておかないと、そこが一番2校案に記入された保護者の方は知りたいところだと思います。そこをきちんと整理して持っておくということも必要なんじゃないかという風に思いました。以上です。

【石丸市長】

貴重なご指摘ありがとうございます。確かに3番目のところは、私も全くそうだなと思います。最終的な結論です。その答えに至る思考の検討の過程というのは、今説明にあったとおりなんですけども、最後のまとめのところでそれぞれのプロコンをまとめて整理してあれば、一目瞭然でこれはこっちを選んだ方がいいんですよと分かりやすくなると思いますので、そのあたりの工夫をお願いします。

他にはいかがでしょうか。山本委員お願いします。

【山本委員】

この資料のアンケート結果を踏まえて、大変分かりやすくまとめられているなと思っております。

私が一点思うのが、一番最後の3のまとめです。先ほどの迫広委員とも関連してくるんですが、なぜ統合するのかというのを前面に出していくためには、まとめの最初に未来に生きる力を高める場所となっておりますが、そこへ急激に変化する社会に対応した未来というのもぜひ、説明の中に入れてほしいなと思います。それでなかったら、ただ単なる未来ではなく、大変今から世の中が変わっていくというのをしっかり保護者の方に言ってほしいなと思うのと、その次の新しい学校で将来に向けた力をというところですか。そこも最新の設備環境の整った学校で自立した人間として主体的に判断し、より多くの仲間と協働しながら新たな価値を創造する力を育てていくというような文言をこの文章でもいいんですが、付け加えて説明してもらえれば、より1校案という重みが出るのかなと思います。以上です。

【石丸市長】

どうもありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。広瀬委員お願いします。

【広瀬委員】

1 ページめくったところのアンケート結果の心配なことという部分で、通学手段、中学校の位置というのは、本当に丁寧に分析されて、ここに示されてあると思います。私はどうしても次が引っかかってしまいます。生活変化への対応、指導体制。この二つを足したら 28%です。これは自分の子どもが新しい学校に行って不安なく過ごせるんだろうかという教職員側の問題であったり、生徒数が増える中で、その 28%のところ、この説明の場ではいけないと思うんですが、万が一質問が出た時には、きちんとこういう教育内容でこのように手段を考えているというのを持っておくべきだと思います。教育の中でこの 2 つは絶対外せない一番大事なところですよ。ハード面は説明でよく分かりましたが、そこを持っていていただきたいという風に思います。

【石丸市長】

ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。金川委員よろしくお願いします。

【金川委員】

資料についてはないんですが、私、保護者代表の教育委員として、他市町では、学校統合が出されて、保護者の協議が後々なされるとか、そういう情報などがある中で、しっかり保護者、生徒児童の意見を取り入れながら、新しい学校を作っていくという会議を開いていただいている市長や事務局の皆さんには、保護者はすごく感謝できるんじゃないかと私はすごく思っています。今回も一番最後に皆さまのご意見をお聞かせくださいと書いてあります。これはまた保護者の意見を酌んでいただけるものだと私は考えておりますので、こういうすごく丁寧にやっていただけることにこの場をお借りして感謝を申し上げたいと思っています。保護者も大変喜んでいただけるのではないかと思います。安芸高田市でこういう検討ができるというのはすごくありがたいと思っています。こういう感想みたいなことではないです。

【石丸市長】

ありがとうございます。先ほど、小学校のところで広瀬委員がおっしゃった子どもたちが主体であるべきというのは、もちろん中学校においてもそうだと思います。今回であれば保護者の方がそれを代弁してくださっているわけなんですけども、やはりそこから作り上げていく、紡いでいくというのが最も良い教育現場、教育環境になるんだろうと思います。その意味では、今日ここにお集まりいただいて、いろんなご意見、ご指摘を頂戴できるというのも市としてはとてもありがたい、希少なことだなと思っていますので、重ねて私の方からお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

教育長、どうですか。

【永井教育長】

私の方からも先ほどから意見を述べていただいている教育委員の皆さん方のお考えと同じとい

うことで確認をさせていただければと思うのですが、とりわけここ最近強調されております、世の中が大きく変わってきて、これまでの子どもたちが知識を記憶することが大切なのだという考え方から子どもたちが身近ないろんな事象に対して課題を持ち、その課題に対して仲間と協働しながら、自分たちで解決していく、そういう力をつけることが、将来、子どもたちがより豊かな社会を生きていくということに繋がるというところで先ほどからも出ておりますようなこの統合に関わっても中学校ということですから、可能な限り生徒の意見や要望を取り入れながら、具体の場面では、子ども達が本当に自分たちの学校だと、自分たちの学校ができるんだという風な統合へ向けての取組にしていくことができたかなという風に思っております。

【石丸市長】

ありがとうございます。教育長からお話もありまして、その前に山本委員も言及されたんですけども、やはりこれから変化がどんどん大きくなっていく。その中で大人になっていく、生活していく子どもたちに対して本当にこの町として最大限できる限りを提供していきたいなと思います。今日、少しだけ話にあったんですが、費用の面です。校舎を新しく建てるとなれば、それ相応の額になりますが、これは市としては当然、惜しむことなく、投資というんでしょうか、そこに支出するべきものだと思っています。ハードの話もあれば、ソフトの面もいずれにしても経済的な費用が伴いますので、そのあたりは市として最大限の財政のやりくりをして子どもたちに何を残すのか、今の大人の責任としてしっかり執行部として検討していきたいと思います。

他にはよろしいでしょうか。では、今のご報告に加えてご指摘いただいた点も踏まえまして、こちらの資料を修正した上で保護者への説明を始めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ご異議ないでしょうか。では、こちらで進めさせていただきます。

以上で、中学校規模適正化についてを終了とします。以上で本日の協議は終了となります。ここで委員の皆さまからご連絡事項等ありますでしょうか。よろしいですか。それでは事務局の方はいかがでしょうか。よろしいですか。

では、ないようですので、以上をもちまして、今年度の第3回総合教育会議を終了します。皆さまご協力どうもありがとうございました。